

西田幾多郎 未公開ノート類 研究資料化

報告 3

2019

人格と個人性 *Person and Personal Nature*

Person と之を組織する personal nature との
関係を考察して置くことは倫理学上大切なことと思
ふ。これは前記の moral good と natural good との関係と
person との区別が特別にあるもの、person と personal
nature の関係にかゝる由り、異か同の推し進めらるべき
と思ふ。

person とは self-concern, self-pardon, self-consultation
等の条件がなければならない。

此等の qualities による person 西田幾多郎記念哲学館
の区別 特殊の力をもつて self-concern と self-pardon

西田幾多郎
未公開ノート類
研究資料化

報告 3

2019

i	はじめに 浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)
---	---

1	写真 一資料一
---	---------

9 第一部 翻刻の経過

11	2019年度研究資料化事業の経緯 浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授)
18	2019年度の一次翻刻作業について 中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
21	2019年度の二次翻刻作業および出版原稿の作成について 中嶋 優太 (石川県西田幾多郎記念哲学館専門員)
25	報告資料
31	哲学館所蔵資料における西田直筆短歌について 井上 智恵子 (石川県西田幾多郎記念哲学館学芸員)

37 第二部 寄稿

39	西田幾多郎新資料(二つの講義ノート)をめぐって 秋富 克哉 (京都工芸繊維大学教授)
43	翻刻作業の一翼を担って 鈴木 康文 (石川工業高等専門学校嘱託教授)
45	一次翻刻に携わって 一作業記録と気づき一 大矢 宏基 (金沢大学人間社会学域人文学類)
47	西田の無とシュティルナーの創造的無 満原 健 (奈良県立大学非常勤講師)

- 50 西田の読書ノート研究の可能性
吉野 斉志 (京都大学非常勤研究員)
- 53 京都大学における一次翻刻について
山下 大輔 (京都大学文学研究科文献文化学専攻ドイツ語学・ドイツ文学専修博士後期課程)
- 55 翻刻という作業及びそこから見える西田の気質について
本田 隆裕 (京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修修士課程)
- 57 骨清窟のメーテルランク～西田幾多郎旧蔵本 (2)
高橋 麻帆 (石川県立看護大学非常勤講師／古書籍商)

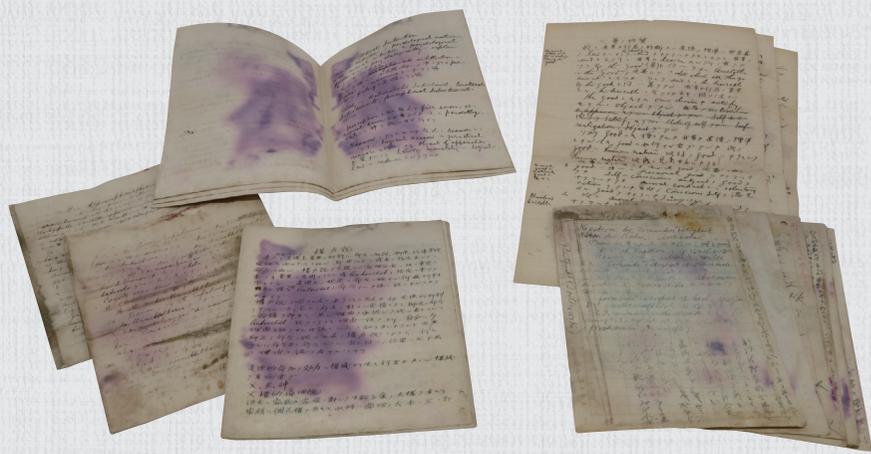
61 第三部 翻刻

- 63 「印度哲学 村上講師」(A04) について
森 雅秀 (金沢大学教授)
- 66 翻刻本文「印度哲学 村上講師」(A04)

- 90 あとがき
- 91 執筆者一覧

写真

資料



ノート以外の資料



「印度哲学 村上講師」受講ノート(A04)表紙

此ヨリ講義ノ方法ヲ変シ歴史的ニ講述セシメ然レニ之甚困難也故ニ俱
究ヤハ印度ニ起リ天竺トハ文即起シテ今其次第ヲ追テ述ヘト又
然レニ釋迦ノ傳ヲ知ルニ二百卷以上ノ書ヲ要スハ到底僅ノ年月ヲ及
テ難シハキコトナリ也釋迦以前ノ梵文ハ梵文ヲ執法六十五号ニセ
ルハ極簡單ニ述ヘン

釋迦以前ノ有様

釋迦如來以前ノ印度ニ文字ヲ勃起セテ佛書ニ依テ明ラナリ
外道ノ書ノ少ク佛書ノ多ク四卷ノ外道ノ書ニ依テ明ラナリ
又略論^論外道ノ書ノ多ク又外道ノ書ニ依テ明ラナリ
聖論^論外道ノ書ノ多ク又外道ノ書ニ依テ明ラナリ
ハニ大梵論中ニ收見スル所アルシ中ニ大ニ經十^十主^主ニハ
三十種ノ外道ノ名アル然レニ是名^名ニテ其義^義解^解スルニ大ニ難
シ私譯^譯ノ中ニ其大ニ難ク辯セ^辯ル又十^十種ノ外道ノ名^名ニテ
瑜伽師他論^論ノ中ニ外道ノ名^名ニテ又其論^論ニテ其義^義解^解スル
是等ノ書^書ノ外道ノ十六^{十六}ノ名^名ニテ其義^義解^解スルニ大ニ難
シ外道ヲ知ルニ最精ナルニテ其義^義解^解スルニ大ニ難
ニ卷ノ十^十種マテノ四^四ニテ其義^義解^解スルニ大ニ難

善ノ性質

善クシテ善クシテ云々所以ノ者ハ之ヲ心外ニ
 求メスシテ心内ニ求メスハト云フ 之ヲ心外
 求メシテ 吾人ノ到底何故ニ善クシテ云々
 云々ナルカヲ解スルヲ云フト云フ 此等ニ於テハ
 道德ト知識ト同一ナル truthト云フ者
 ナリ 定ムル者ハ心内ニ在ル 知識、基礎ハ
 inner intuition ナリ、ト云フ logical lawsハ
 外ノ事ナリ、ト云フ inner form of mindト
 ナリ、ト云フ 知識、fundamental form of mindト
 云フ mode of constructing worldト云フ 故ニ
 吾人ノ truth、absolute conviction、得ル所
 ナリ Descartesノ事ヲ云フト云フ bottom of our
 mindニ在ル 是ヲ云フト云フ What is goodト
 定ムル者ハ心内ニ在ル 是ヲ云フト云フ 是ハ
 外ノ事ナリ、ト云フ 命令、知識ニ於テハ dogma
 superstitionト云フ 道德ニ於テハ 自己ノ信仰
 ト云フ religious belief 又ハ social authority
 ナリ、ト云フ 外ノ事ナリ、ト云フ 吾人ノ精神ヲ支配スル
 力ヲ有スル者ニ在リ、ト云フ 是ヲ云フ 是ハ心外
 ナリ、ト云フ

ノート以外の折丁様の資料(L-01-01-20)

七善、性質

We must start with the most general kind of good.

前二我輩の行為を判断スル道德、標準、無意義
law 7.1 + 7.7 (end 7.7 + 7.7 + 7.7 + 7.7 + 7.7) 我輩 /
end と云フ 7.1 我輩の desire スル 7.7, 若クア
7.7 即 the good (善) と同 7.7 Aristotle
of the good 7.7 定義セテ "that which all things
aim at" と云フ也 7.7 end とハ the desirable
即 the good と同 7.7 義 7.7 我輩の行為、善也
7.7 the desirable 2 合 7.7 即 7.7 = 同 7.7 定マシ

the good と云フハ our desire を satisfy
セシム object 7.7 我輩の activities
7.7 approach セシム object 7.7 我輩の self と云
7.7 satisfy セシム state of self 7.7 self-
realization, object 7.7 7.7

7.7 good = 2 善 7.7 我輩の道德、標準
7.7 7.7 good の如何 7.7 若クア 7.7 7.7 此
good の human nature 7.7 7.7 good = 7.7 7.7 7.7
human nature 7.7 7.7 7.7 7.7

moral good is natural good is 7.7

此事の前 7.7 7.7 moral good, 定義 7.7 7.7
1. good の 7.7 7.7 personal good 7.7 7.7 7.7 +
7.7 self-conscious subject 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 moral conduct 7.7 7.7 7.7 voluntary
action 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7

Muirhead Aristotle

2. 7.7 7.7 moral good, the highest good 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7

7.7 7.7 self-conscious subject, the ultimate
object of desire 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7
7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7 7.7

2. S. と T-A との関係も創造の歴史の表裏として見る(表現作用)

Gegensatz
Selbstbew. u. Tath. Anschauung

歴史的創造の哲学
歴史的創造の立場

歴史的 T-A と考へる方とは development
といふのと、これ考へなければならぬ
(私はいふ立場から云つて居るのがある)
T-A の方はいつも Bedingung となる。
Vergangenheit, Geformt の方向である。

Gegensatz

Form u. Materie
全く円環的と考へれば Vergangenheit の方は
Materie と當る。 Zeit als Minimum.
これは Umgebung と考へる = とおてきた 即ち
Condition である

歴史的創造作用は ^{具体的とは} gesellschaftl. ~~Schaffen~~
Formations-tätigkeit である

T-A の方は Geformt u. Formand 相當の種
Materie (Individuen) の方は persönlich
となる (ich u. du)
Spezifische Formation

Abs. Negation の立場から此作用が
行爲的となる。 Denken とか Selbstbew. と
かなる

Induktive Handl. u. Selbstbew. u. denkende
Handlung の發達論的 (歴史的土壌論的とは)
Denken とか Selbstbew. とかは Abs. Negation
である。 more + more individual.

西田用紙

西田用紙に書かれた資料 (I-02-04) 晩年の資料か?

西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告 3 (2019)

2020年3月31日 発行

編集 浅見 洋・中嶋 優太・井上 智恵子

発行 石川県西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126 石川県かほく市^{うちひすみ}内日角井1番地

TEL : 076-283-6600 FAX : 076-283-6320

E-mail : nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

HP : <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

出版 前田印刷株式会社出版部

ISBN978-4-944014-19-4 C3010

ISBN978-4-944014-19-4
C3010 ¥1364E
定価 1,500 円



9784944014194



1923010013640

§3. Religiöse Bedürfnis. (宗教の要求)

Der religiöse Trieb ist Lebenstrieb
に 3. (nicht äußerlich betrachtet sondern
innerlich od. psychologisch betrachtet).

words of
Paul
quoted

Aus Bibel: Wer sein Leben lieb hat, der
wird es verlieren; und wer sein Leben
auf dieser Welt lässt, der wird es erhalten
zum ewigen Leben. (Joh. 12). Ich bin
das Brod des Lebens. Wer zu mir kommt,
den wird nicht hungern; und wer an mich glaubt,
den wird nicht dürsten. (Joh. 6).

この二語は Bibel の中 2 箇の 例 として
Metapher に 用 いた 11.

Amer は 2 の Psychology of Religious Exp.
と 此 2 箇 の 例 を 用 いた 11.

View of gentile
social psych
11

The origin of Religion is the origin of the
social cons. と 述 び いた 11. Religi. cons.

primitive
religion

is consciousness of the greatest values of life
と identify いた 11. For sense of values